

1 開会

2 あいさつ

産業労働部 齊藤次長より開会のあいさつ

3 出席者紹介

事務局より、出席者の紹介

4 議事

(1) 会長・副会長選出

事務局より、会長は、あきた総合科学技術会議設置要綱第4条第2項により委員が互選することを説明。委員からの推薦がないため、事務局より、秋田大学理事・副学長の尾野委員にお願いしたい旨説明し、委員の賛同を得る。

尾野会長より、会長選出にあたり挨拶。

事務局：ここからの議事進行は、尾野会長にお願いする。

尾野会長：次第に沿って始める前に、審議内容は、議事録として県のウェブサイトに掲載され、その際に委員名を秘匿にする必要はないと思うので公開で行いたいのがよろしいか。

【「異議なし」の声あり】

尾野会長：副会長の選任に移る。設置要綱第4条第2項に基づき、副会長は会長が指名することになっている。あきた企業活性化センター専務理事の菊地委員にお願いしたい。

【菊地委員 了承】

尾野会長：本日は、あきた科学技術振興ビジョン2.0の改正に関する議事その他、関連ロードマップ集に記載されているプロジェクトの総括として、取組事例報告などを予定している。多くのご意見を頂ければと思うので、よろしく願います。

(2) 「あきた科学技術振興ビジョン2.0」の改正について

尾野会長：議事(2)の「あきた科学技術振興ビジョン2.0」(以下「ビジョン2.0」という)の改正について、事務局より説明をお願いする。

事務局：(資料2-1により説明)

尾野会長：事務局からの説明について、意見を伺いたい。

尾野会長：まず私から発言させていただく。このビジョン2.0は、10年スパンであるのに対して、「新秋田元気創造プラン」(以下「新プラン」という)は、知事任期中にやりたい県の施策・事業を定めるものである。県庁は、新プランに基づいて施策や事業を行っていくことになるの

で、それに合わせビジョン2.0も少し見直してみようというのは当然のことと思う。

一方、科学技術が目指す方向性は、県の施策・事業プランが新しくなったとしても、それほどずれるはずがないとっていて、実際、ビジョン2.0を見ても、確かにあまりずれていないと思う。科学技術のスパンが10年という考え方は、間違っていないと思う。

例えば、昨年度はCOP26が開催されるなど、地球温暖化はますます喫緊の課題となっている。このため秋田県は再エネ関連の事業に取り組む必要が出てきており、それをビジョン2.0に書いた方がいいと思ったが、改めてビジョン2.0を見ると、そういった分野をやるのが既に書かれているので、大きな変更は必要ないというのが事務局の提案であるし、私もそのとおりと思った。

その他確認だが、資料2-2 28, 29ページの指標には参考と書かれているが、これはあくまでも目標値なのか。指標であれば、それを達成できなかったらどうするかなど定めているのか。事務局：あくまでも目標値としての設定である。ビジョン2.0において、これを参考として状況を把握していくことが目的である。

尾野会長：他に意見があればお願いしたい。

齋藤博子委員：ビジョン2.0の全体的な見直しは、私も必要ないと思う。一方で、時代に敏感なもの、例えばスタートアップ企業の創設や支援などといったものをビジョン2.0に取り入れていくことは考えているか。

事務局：県で行う事業は新プランに基づいて行うことになり、科学技術振興の部分については、ビジョン2.0に基づいて進めていくことになる。

例えばスタートアップ支援に関する県の事業は、新プランの中で新事業の創出や新規事業者・起業を支援することが示されている。一方、ビジョン2.0は10年スパンであり、科学技術振興の大きな方針・方策を書くものなので、そこまで記載しきれていない。

齋藤博子委員：スタートアップ企業の支援については、国でも一生懸命支援している。秋田県におけるスタートアップ支援に関する事業は、近隣県に比べると取組が弱いように感じる。スタートアップ支援は、科学技術に関連するものもあると考えるので、検討してもらいたい。

尾野会長：ビジョン2.0の中で、資料2-2 26ページにあるメソッド「次世代を担う人材育成・支援」に、スタートアップ支援に近い内容が書かれている。今の話は、例えばこのあたりにスタートアップ支援に関する内容を追加ということでも良いか。

齋藤博子委員：はい。

尾野会長：委員からの貴重な意見かと思うので、事務局にて検討をお願いしたい。

事務局：事務局にて検討する。

眞田委員：資料2-2 改定部で次の文言について気になる点があるので確認したい。

資料2-2 7ページの「蓄養殖」について。これは水産関係では一般的な言葉なのか。

資料2-2 15ページの「県産農林水産物など～研究に取り組みます。」だけは「取り組みます」という未来形の記事になっている。他の部分は「支えています」など、現在形になって

おり、統一した方が良いのではないかと。

資料 2-2 19 ページの「高品質で多収量なきのこ〜」は、高収量と書いた方が分かりやすいのではないかと。

事務局：「蓄養殖」は、水産関係で一般に使われるものと認識している。時制の指摘については統一する方向で検討する。多収量・高収量については改めて確認の上、対応する。

齊藤仁志委員：秋田県が現在取り組んでいる国の研究開発プロジェクトについて、もう少しビジョン 2.0 などに取り入れてもらえればと思う。先ほど齋藤博子委員から PR の話があったように、県が具体的に何をやっているかを県民にいろいろ知ってもらうことが重要と考える。先ほどのスタートアップ支援は、私ども科学技術振興機構でも力を入れており、JST でも積極的に PR していくところ。

また、関連ロードマップ集廃止について、廃止になると、各機関（県内の高等教育機関・公設試）がどのような取組をしているか見えなくなるのか。

事務局：各機関それぞれで内容を公表しており、例えば各機関の HP などで情報を確認できる。

齊藤仁志委員：関連ロードマップ集廃止により、各機関の取組が見えなくなってしまうと困る人たちもいると思うので、今後も情報提供を続けてほしい。

事務局：例えば資料 2-2 21 ページでは、各フィールドに応じた各機関の主な取組が書かれている。詳細を知りたい場合は、この情報を基に各機関の HP などで検索できる。

資料 2-2 21 ページで取り上げている秋田大学・秋田県立大学で行っている航空機エンジン電動化システムの研究は、国の交付金などを使い取り組まれている事業である。直接国の研究開発プロジェクトで行っている事業と直接記載していないが、ビジョン 2.0 の中でも主だったものを取り上げている。

齊藤民一委員：先ほどの話になるが、資料 2-2 28 ページからの「参考とする指標」にある目標値は、新プランでの目標値と同じということで良いか。

事務局：そのとおりである。

後藤委員：私は比内地鶏の仕事をしているが、県内の比内地鶏のほとんどは生肉で出荷されており加工がとても少ない。一般的に原材料は秋田県産であっても、加工などが県外であれば、製品には秋田県の名前は小さく表示されてしまうことが多い。秋田県で生産されたものは秋田県で加工・販売するといった体制を考えてもらいたい。

尾野会長：今の話は、今回の議題からは少し離れるかもしれないが、私も同じことを感じている。後藤委員の話のように、加工技術などで伸びる要素があるように思う。

事務局：県の担当部局に、このような意見があったことを伝える。

齊藤仁志委員：この件に関連する事例を紹介する。奈良県は、以前から茶葉の栽培が盛んであったが、加工などは県内で積極的に行っていなかった。ここで奈良県が力をいれ「大和茶」という名前でブランド化して、今では、東京の高級ホテルで取り扱われるなど、ブランド確立に成功した。こうした取組は、自治体が主導しないとなかなかできないことかと思うので、是非頑張ってもらいたい。

事務局：ご意見いただき感謝する。秋田県の商品加工が弱いことは昔から言われている。県で生産される食品に付加価値を付けるために、約 20 年前に秋田県食品総合研究所を作ったり、近年では食品工業、販売やマーケティングを振興する部署を作ったりと、いろいろ手は打ってきた。また高等教育の面言えば、本県には農学部がなく、秋田県立大学の生物資源科学部でどういったことを取り組むかなど、やらなければいけないことがたくさんあると認識している。

後藤委員からの加工に関するお話は、そのとおりと思っている。過去に、秋田県内での加工・ブランド化に取り組んだとき、例えば必要な量を供給できないということがあった。一気に解決とは行かないが、これからも取り組んでいきたいと思っている。

尾野会長：ご指摘の話は、新しい技術を作ろうなどということではなく、県にこうした体制を整えてほしいということかと思うので、県の担当部署に伝えてもらいたい。

それでは事務局からの提案に、これまでの意見・コメントの反映をお願いしたいが、先の齋藤博子委員から指摘のスタートアップ支援関連について、どのような対応方針とするか。

齋藤博子委員：先ほどの意見は、ビジョン 2.0 に長期的な取組だけでなく、短期的なものも取り入れるような仕組みができればという趣旨である。

事務局：ご指摘については、先の説明のとおり、ビジョン 2.0 は 10 年スパンであり、なかなか短期的なものを取り入れるということは馴染まないと考える。

県としてもスタートアップ支援が重要であることは充分認識している。これは新プランに記載されており、対応していくことになるため、スタートアップ支援という記述もビジョン 2.0 よりも新プランの中にある方が自然であるように考える。

真田委員：今の話は良く分かるが、だからといってビジョン 2.0 に書かないというのは少し違うと思う。先に尾野会長の話にあったように、ビジョン 2.0 にはスタートアップ支援に近い内容が書かれており、資料 2-2 26 ページ「次世代を担う人材育成・支援」には、例えば「グローバルに活躍できる人材の育成」や「多面的視点を持った実践的な人材の育成、起業教育の充実」という欄がある。ここに例えば起業するプレイヤーの育成などを含めた形でスタートアップ支援につなげる内容を記載することができるのではと思う。

事務局：科学技術を推進する上で、研究者たちのマインドセットとして、スタートアップにつなげることを常に考えることが必要である。指摘のとおり、人材育成の段階でそのようなマインドを持たせるという記載がビジョン 2.0 にあってもいいと思う。

尾野会長：それも含めて事務局で検討をお願いします。それでは、コメントに対する検討や反映は事務局に任せることとして、関連ロードマップ集の廃止を含め、ビジョン 2.0 の改正案を承認してよろしいか。

【反対意見なし】

尾野会長：それでは、ビジョン 2.0 の改正案を承認する。

(3) 取組事例報告

尾野会長：関連ロードマップ集記載プロジェクトの総括として、秋田大学と秋田県産業技術センターからそれぞれ取組事例の報告をお願いします。まず私から秋田大学の取組について報告する。

尾野会長：(資料 3-1 により説明)

齊藤仁志委員：オンライン診療室の話があったが、どこまで進んでいるか。

尾野会長：オンライン診療室は、まだ情報セキュリティーなどの問題が残っており、今は試験的に行っている状況である。

一番活発なのは、循環器医療分野で患者さんを超音波で診断するようなケース。例えば、専門医が大学病院にいながら、県南の病院で医師が患者の胸に超音波プローブをあてて、大学にいる専門医がそれを遠隔で見ながら指示や診断をすることは既にやっている。こうした取組はかなり有効なので、他の地域にも広げようとしている。

齊藤仁志委員：患者にスマートウォッチなどを付けさせるような取組はされているか。

尾野会長：ウェアラブル装置を用いたものなどは、個々の研究者で取り組んでいる段階。循環器分野で現在一番多いのは、埋め込み型デバイスを利用するもので、デバイスが出す信号・データから診断することは可能になってきている。

尾野会長：続いて、秋田県産業技術センター素形材開発部の瀧田研究員に報告をお願いします。

瀧田研究員：(資料 3-2 により説明)

尾野会長：最初の説明の方で、EV は車体が重いという話があった。この技術は、重い車体に耐え得る十分な強度を部品に持たせることができるようになるということか。またその結果、EV が軽量化できるというようなことはあるか。

瀧田研究員：軽量化ではなく、あくまで重さに耐え得る部品を製造する技術である。

尾野会長：普及や完成というところまで、どれくらいかかりそうか。

瀧田研究員：この報告は、サポイン事業として企業と共同で研究開発したもの。量産段階まで進んではおらず、現在はこの技術を製品に適用していった問題ないかを検証している段階である。

植松委員：焼入れをすると一般的に硬度は上がるが、強度も上がるといえるのか。一般的には焼入れにより脆くなるということも知られており、この技術により新しい問題が出てくることはないか。

瀧田研究員：今回、パーキングロッドという部品に焼入れをしている。焼入れは、ロッド外側の摩耗に対して硬度を高めるために行う。レーザ焼入れは、高周波焼入れよりも一般的に焼入れ層を薄くすることが可能で、ロッド中間層への焼入れは薄いため、焼入れされたロッド外側では高い耐摩耗性を有し、焼入れの薄い中間層は柔らかい部分となり、従来のしなやかさを保つことができる。

齋藤博子委員：この技術は、特定の企業のみへの提供になるのか。他の企業にもオープンにしていくことになるのか。

瀧田研究員：この報告について言えば、特定企業への提供になる。一方、焼入れに関する条件出しやシミュレーションについては、他の企業への提供も可能である。一つ目の条件出しについては、材料・形状・用途等々によって変わる。レーザー焼入れを導入している企業は他にもあるが、それぞれものが違うので、条件出しも企業ごとによって変わることになり、企業に応じた条件出しということを経営支援として行っている。シミュレーションについても、レーザー焼入れに取り組まれている他の企業さんから相談があれば個別に対応できる状況である。

5 その他

尾野会長：他に報告事項や情報提供、また会議全体を通して意見等あれば、願います。

【発言なし】

尾野会長：全ての議事を終了したので、進行を事務局にお渡しする。ご協力に感謝する。

6 閉会

事務局：多数のご意見を賜り、また会長には長時間にわたり議長を務めて頂き、感謝申し上げます。

会議でのご意見・コメントに対する反映は、改めて確認をお願いします。

以上で、令和4年度あきた総合科学技術会議を終了する。